

熊本県相良村 (さがらむら) の概要

熊本県の南部に位置する人口3,940人（住民基本台帳：令和7（2025）年1月末）の村。村の中央を18年連続水質日本一（国土交通省：水質が最も良好な河川（令和6年公表））の清流「川辺川」が流れており、全国から多くの鮎などの釣り人が訪れます。基幹産業は農林業で、恵まれた自然環境を活かし、お茶を中心に、米、イチゴ、メロン、薬草など、様々な作物が生産されています。特にお茶は、県内一の生産量を誇り、農林水産大臣賞を受賞し、全国的にも高い評価を受けています。林業が盛んな地域でもあり、近隣の市町村と共に林業地帯を形成しています。観光では、日本遺産の構成遺産になっている十島菅原神社や雨宮（あまみや）神社などの神社仏閣が数多く残り、春と秋には相良三十三観音が開帳されるなど、自然と歴史に包まれた地域となっています。

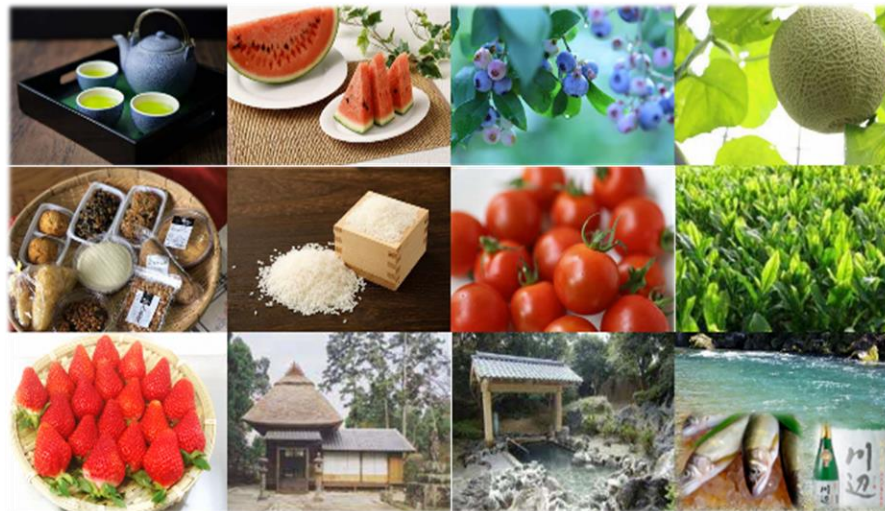


人口減少が進み行政サービスが十分に行えなくなる！

【第6次相良村総合計画】

〔基本構想〕

- 01 ブランド力のある村
- 02 川辺川の魅力が広がる村
- 03 子どもの未来を地域で育てる村
- 04 安心・安全な生活を支える村
- 05 高齢者がいつまでも現役の村
- 06 豊かさが循環する村



【相良村総合戦略】

〔基本目標〕

- 安定した雇用を創出する
- 新たな人の流れをつくる
- 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守る

【相良村復興計画】

基本理念「未来につなげるむらづくり」

● 計画策定に伴う中学生アンケート結果（抜粋）_R3.1月実施

（問）これからも相良村に住みたいですか？

- ・住みたい 65%
- ・相良村以外に住みたい 34%
- ・未回答 1%

（問）これから相良村はどんな村になればいいと思いますか？

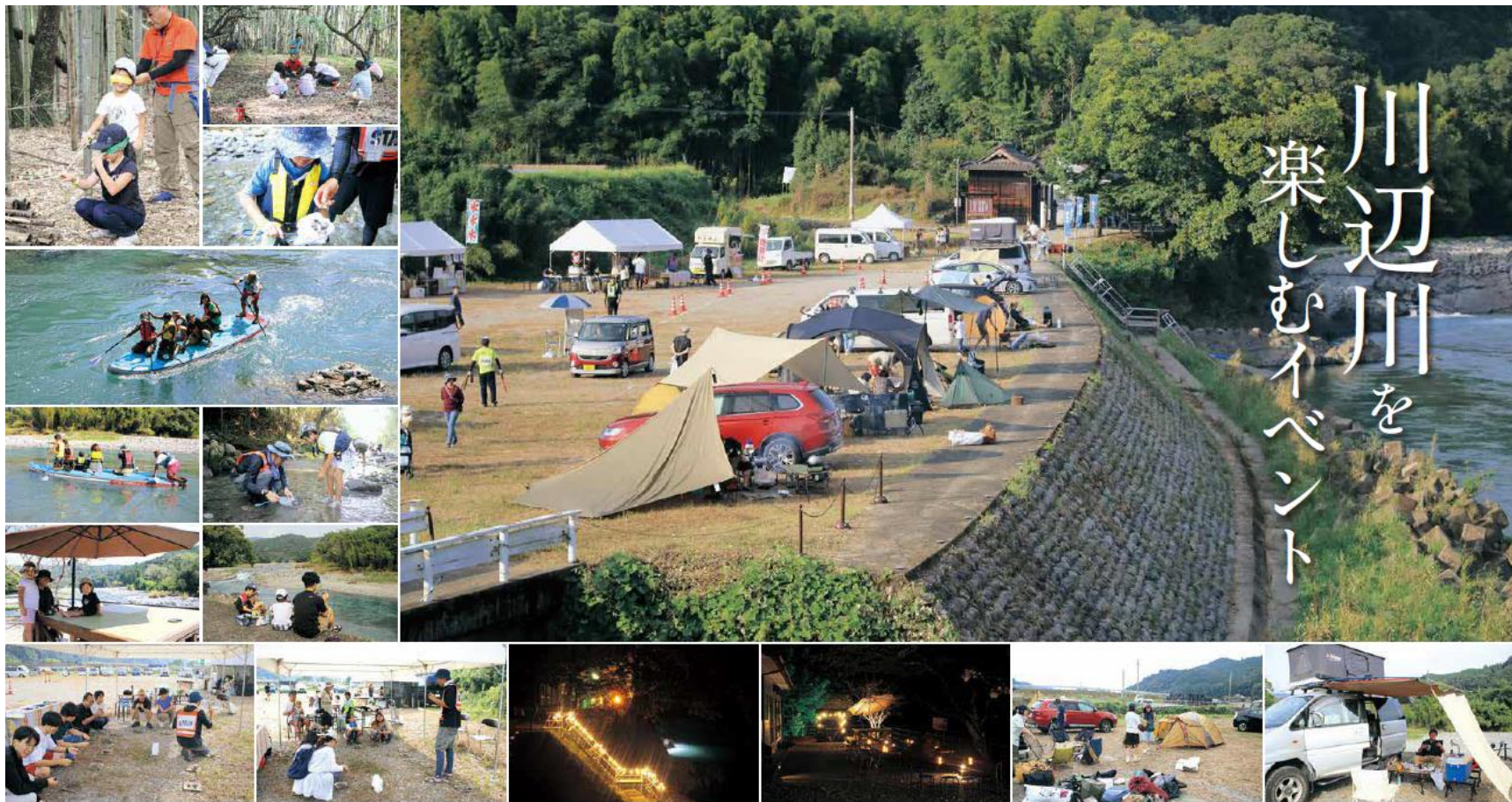
- ・住んでいる人が幸せにすごせて住みたいと思える村
- ・村民がいきいきと活動できる村
- ・にぎやかな村（活気あふれる明るい村）
- ・いろいろな人と交流できる村
- ・もっと若い人が活躍できる村
- ・村外から来る人がもう一度来たいと思える村
- ・いつまでも自然が守られ美しい村
- ・子どもから高齢者まで便利で過ごしやすい村 など



（問）相良村にあったらいいなあと思うものはありますか？

- ・お店（飲食店・スーパー・コンビニ・雑貨店・駄菓子屋・本屋等）
- ・遊び場（公園・カラオケ・遊具等）
- ・スポーツ施設（バッティングセンター等）
- ・だれでも気軽に立ち寄れるカフェ
- ・図書館
- ・冷暖房が整備された勉強もできる施設
- ・子どもが楽しめ、いろいろな人と交流できる施設
- ・村の良いところを眺めることができる場所 など

川辺川を 楽しむイベント



9月28日(土)・29日(日)、川辺川魅力創造発展事業「川辺川を楽しむイベント」が川辺川親音周辺で開催されました。

日本一の川辺川を体感できるイベントとして、茶会をはじめ、テントサウナ・お試しキャンプ・自然探検(森遊び・がさがさ・火起こし)などが実施されました。予定していた川遊び体験(SUPや川下り)は、増水のため残念ながら中止になりましたが、急遽、インストラクターによるSUPのデモンストレーションやメガSUPによる川渡しが実施され、多くの参加者が川辺川を体感していました。

森遊びでは、河川内にある森を活用し、竹と竹とを紐で結び、目隠しをして前が見えない中、手や耳を使って紐を辿り、自然を違った角度から堪能しました。参加者は、「この体験は参加しないと味わえない楽しさがあった」と話されていました。がさがさ(水生生物調査)では、網とかごを持って川底を、がさがさし、カニや魚、水生昆虫などを捕まえ、「大きいのが取れた」「虫を捕まえた」とはしゃぐ姿や、水質調査を併せて実施し

たことで、水質が良好な河川で遊んでいることも実感でき、参加した子供たちは目を輝かせていました。

夜は川辺川や茶屋などをライトアップし、星と通った雰囲気

の川辺川を味わいました。会場では、アユの塩焼きの振舞いや地元農家さんによる農産物などの販売も実施されました。また、キッチンカーの出店もあり、来場者は心も体もお腹も満たされています。

今回の事業は川辺川魅力創造事業の実証実験として相良村観光協会と相良村が共催で実施し、課題の抽出及び事業の拡大のためアンケート調査をおこなって多くの参加者からの意見を集約することを目的として開催され、今後の広報素材への活用も期待されています。

今後は、いよいよ施設等の整備へと移っていきます。整備後も引き続きイベントは開催される予定です。また、この場所に限らず川辺川全体での取り組みを推進しています。

(会場の様子は、公式Facebook 兼 SNSも随時公開いたします)



○ 持続可能な管理運営及び人材確保の検討

→導入期～3年…民間の参入を促す（参入リスクを低く設定＝公共運営）

成長期～5年…民間による拠点運営を通じた事業展開（＋公共）

成熟期10年～…拠点機能が充実し地域住民に欠かせない場となる（民間主導）

→コーディネート人材…俯瞰した視点での事業展開を担うことが期待される人材

価値づくり人材…交流拠点を中心に新たな価値を生み出していく

地域外の知見を取り入れながら専門性をもって活動展開する人材

※国事業の活用想定

- ・地域活性化企業人（民間企業の社員を自治体に派遣し地域貢献する活動を支援する仕組み）
- ・地域おこし協力隊（地域に定住及び定着が期待できる）

○ 今後のスケジュール

令和5年度 基本計画策定

令和6年度 用地取得・詳細設計（建築・造成）

令和7年度 造成工事（1期）・建築工事 ※詳細設計後

令和8年度 一部供用開始

廻地区（川辺川魅力創造事業）以外でも
遊水地を活用した多目的広場や
親水公園や地域の方々が気軽に集まることができる
交流拠点施設の整備を計画しています。

水辺拠点整備案 位置図



四浦地区拠点施設のイメージ図（案）

※四浦保育所施設を利活用



・野菜を作っている人たちの販売の場所を提供
・買い物ができる場所
（ちょっとしたスーパー）

四浦に伝わる伝統文化の体験
（四浦こんにやく作りなど）
趣味や特技を活かしたミニ講座
高齢者が活動する介護予防

気軽に立ち寄れる場所
～国道に面する部分は開放的に～

R445号を利用する人
地域内外の人が
気軽に立ち寄れる縁側に



遊水地の利活用基本計画（案）

柳瀬遊水地（国管理区間）

※掘込式（洪水時に河川の水を貯めて下流域の被害を軽減）

3.整備方針とイメージ

住民意見

柳瀬遊水地の利用内容として、グランドゴルフやドッグランなどがあがっています。特別な施設が無くても、多目的に利用できる広いスペースがあれば実施できる内容が多くなっています。

グラウンドゴルフ	キャンプ場	フリーマーケット
サバイバル場	パークゴルフ場	マウンテンバイク場
ドッグラン	ボルダリング	野外シアター（白い壁面）
釣り堀	アスレチック	ドローン練習及び大会会場
スケボー場		

整備方針

＜基本方針＞

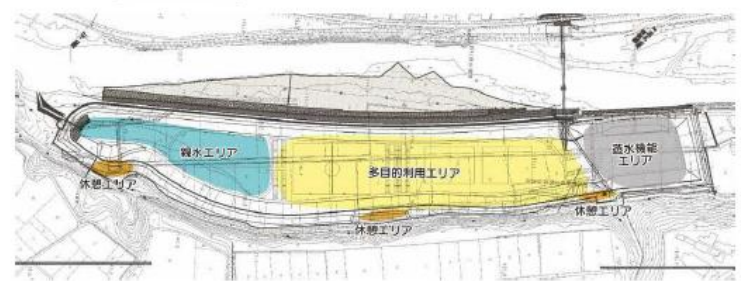
水辺拠点の中でも特に恵まれた立地や、広大な敷地面積を活かす広域交流拠点として位置づけます。相良村民の利用はもちろんのこと、広い範囲からの集客を期待できる機能の導入を計画します。豊富な湧水を活かして、水に親しむ場所を整備します。

- ・柳瀬遊水地ならではの湧水を活かした水辺の散策路や、ベットと水遊びを楽しめるドッグランを整備して、村外からも利用者が来訪する場所づくりを行います
- ・住民意見も踏まえて、スポーツやイベントなどに使用できる多目的広場を設けます
- ・多目的広場には、たくさんの人が利用できる駐車場を設置します
- ・良好な自然景観の形成のため、また快適な利用のため、木陰をつくる樹木を植栽します
- ・多様な世代が交流できる場として、治水機能に支障を及ぼさない範囲で、遊具や健康器具等を設置します

ゾーニング

整備対象地をスポーツやイベントに利用できる多目的利用エリア、湧水の触れて楽しむ親水エリア、トイレ・駐車場を置く休憩エリア、利用よりも遊水機能を優先する遊水エリアの4つのエリアにゾーン分けします。

多目的利用エリア	サッカーやパークゴルフなど多目的な利用が可能なエリアです。フリーマーケット等のイベントでの利用も想定しています。
親水エリア	湧水を利用した水路や池で、水上アスレチックやズと一緒に水遊びを楽しめるドッグランを計画します。
休憩エリア	遊水地外のトイレ・駐車場を設置するエリアです。
遊水機能エリア	遊水地の機能を優先し、利用しないエリアです。



湧水を活かした親水エリア



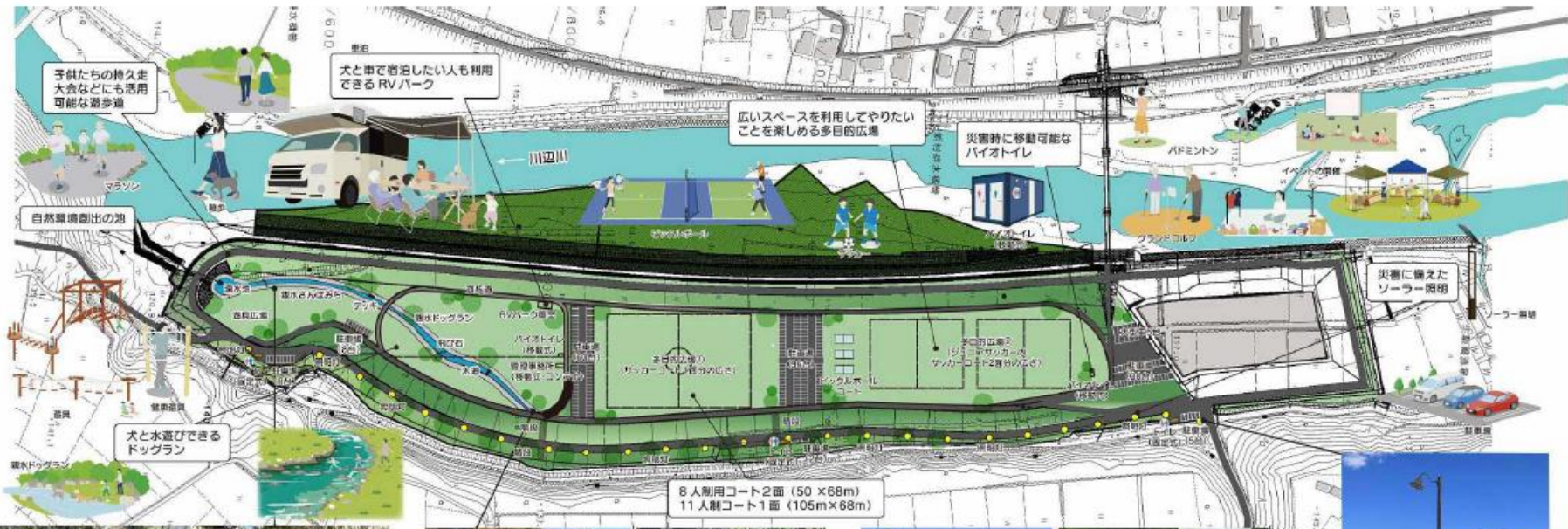
スポーツやイベント等に利用できる多目的利用エリア



遊水地の利活用基本計画（案）

施設配置計画（案）

村民の意見を反映し、広域拠点として色々な利用が可能な計画案を作成しました。



湧水の水深の散歩道のイメージ
(飛び石など、水に親しむことができる施設の整備)



湧水の活用イメージ
(遊水地外から遊水地内へ引き込んで利用)



湧水を活かした親水水路整備イメージ
(柳瀬調整池では多自然河川ではなく親水施設として整備)
芝罘溝の水路例



遊水地再帰遊歩への照明灯設置



遊水機能を有する土地（県管理区間）の利活用基本計画（案）

① 黒石地区 整備方針案とイメージ

村の主要な産業の1つである畜産業振興の拠点として、**牛の放牧**や**採草地**としての利用を計画します。
併せて、駐車場やトイレを整備し休憩所としての機能も一部計画します。

- 【整備検討・案】
- 廻地区交流拠点施設（川辺川魅力創造事業）との往来などで通過する人等が休憩できる駐車場・トイレ・自動販売機を設置
 - 自動販売機では、牛肉やヨーグルトなど、村の畜産業に関わる商品等の販売も想定
 - 放牧が川辺川の汚染の原因とならないよう、河川から離れたエリアを放牧場所にするなど配慮
 - 広大な土地を活かし、普通自動車、大型車などの休憩場所としての利用も想定



★遊水機能を有する土地（県管理区間）

② 下鶴地区 整備方針案とイメージ

川辺川や湧水などの**自然環境創出拠点**として、地域住民の方々が日常利用できる**散策路**や湧水を活かした**ホタル水路**等、村外からの来訪者も利用できる**親水公園**を計画します。

- 【整備検討・案】
- 遊水機能地のうち、集落や国道に近いエリアを、散歩や軽い運動を楽しめる公園として利用
 - 湧水を活かした周囲約500mの散策路の中央に、ホタル水路を整備
 - ホタル水路は地域住民と来訪者で一緒につくり・育てる水路とする
 - 遊歩道のルート上に健康器具や遊具、トイレ、ベンチがある広場を整備
 - 地区のイベントなどに活用できる広場を整備
 - 村外からの来訪者も気軽に宿泊できる車泊用のスペースを設置
 - 利用者用の駐車場及びトイレを整備

